



## 「アグリテックって？」

◆農業に最新技術導入／ICT活用し効率化

Q－「アグリテック」にはどんな意味があるの。

A－アグリテックとは「Agriculture（農業）」と「Technology（技術）」を組み合わせた造語で、人工知能（AI）やロボットなどの技術を農業で活用することをいいます。日本の農業は、農業従事者の減少や高齢化、食料自給率の低迷などさまざまな問題を抱えており、アグリテックはその解決の糸口として注目を集めています。

Q－アグリテックで何ができるの。

A－例えば、種や肥料を散布するドローンが既に導入されています。従来人の手でやっていたことを機械に任せるため、少人数で効率よく生産できるようになります。また、センサーの活用も進んでいます。作物の生育状況や気温・湿度などのデータを収集してAIに分析させることで、最適な育て方が分かり、より効率的な生産が可能になります。近年は温度や湿度、光の量などをコントロールしながら、季節や環境の影響を受けることなく室内で野菜を栽培する、いわゆる「植物工場」で生産に取り組む企業も増えつつあります。



ICTを活用した北陸機材の植物工場＝舟橋村東芦原

Q－富山でもアグリテックに関する動きはあるの。

A－滑川市に本社を置くスタートアップ企業、笑農和（えのわ）では、水田の水管理を自動化するシステム「p a d i t c h（パディッチ）」を提供しています。また、富山市の北陸機材は交通インフラ整備が本業ですが、情報通信技術（ICT）を活用した植物工場でレタスの栽培に挑戦するなど、異業種から農業へ参入する動きも見られます。農業は私たちの生活の根幹である食を生み出す、なくてはならない産業であり、アグリテックの動きはますます盛んになっていくと考えられます。富山発の新たな技術や興味深い事例が現れるといいですね。（北陸経済研究所の藤貴伸が担当しました）